



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要						
建物名称	日本通運グループ伊豆研修センター NEX-TEC伊豆新築工事(宿泊・浴室棟・研修棟)	BEE	1	BEEランク	B+	★★★

2. 重点項目への取組み度					
重点項目	得点 [※] /満点	取組み度	評価		
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	2.9 /5		がんばろう		
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	2.9 /5		がんばろう		
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	2.8 /5		がんばろう		
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.4 /5		がんばろう		
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	よい 4 点以上	ふつう 3 点以上	がんばろう 3 点未満

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目		
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。		得点	2.9	
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進(Global Warming)				
<p>■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) カーテン、庇を組み合わせて制御。 床カーペット-20年、壁ビニル-20年、天井ボード-30年 主要な用途上位3種の、2種類以上にB以上を使用し、Eは不使用。</p> <p>■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上)</p> <p>■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) BPI_m=0.7。 [BEI][BEI_m] = 0.68。</p> <p>■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) LGS使用している。 ODP=0かつGWPが低い発泡剤(GWP(100年値)が1以下)を用いた断熱材等を使用している。</p> <p>■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) ライフサイクルCO₂排出率が、一般的な建物(参照値)に対して75%。</p>	Q-1 2 2.1 2.1.2 ① Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 3.2 3.2.1 ③ Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 2.2.2 ④ 2.2.3 ④ 2.2.4 ④ 2.2.5 ④ 2.2.6 ④ Q-3 1 ⑤ 3 3.2 ⑥ LR-1 1 ⑦ 2 ⑧ 3 ⑨ 4 4.1 ⑩ 4.2 ⑩ LR-2 1 1.1 ⑪ 1.2 1.2.1 ⑪ 1.2.2 ⑪ 2 2.1 2.1.1 ⑫ 2.1.2 ⑫ 2.1.3 ⑫ 2.1.4 ⑫ 2.1.5 ⑫ 2.1.6 ⑫ 3 3.1 ⑬ 3.2 3.2.1 ⑬ 3.2.2 ⑬ 3.2.3 ⑬ LR-3 1 ⑭ 2 2.2 ⑮	① 外皮性能 ② 昼光利用設備 ③ 昼光制御 ④ 躯体材料の耐用年数 ⑤ 外壁仕上げ材の補修必要間隔 ⑥ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 ⑦ 空調換気ダクトの更新必要間隔 ⑧ 空調・給排水配管の更新必要間隔 ⑨ 主要設備機器の更新必要間隔 ⑩ 生物環境の保全と創出 ⑪ 敷地内温熱環境の向上 ⑫ 建物外皮の熱負荷抑制 ⑬ 自然エネルギー利用 ⑭ 設備システムの高効率化 ⑮ モニタリング ⑯ 運用管理体制 ⑰ 節水 ⑱ 雨水利用システム導入の有無 ⑲ 雑排水等利用システム導入の有無 ⑳ 材料使用量の削減 ㉑ 既存建築躯体等の継続使用 ㉒ 躯体材料におけるリサイクル材の使用 ㉓ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 ㉔ 持続可能な森林から産出された木材 ㉕ 部材の再利用可能性向上への取組み ㉖ 有害物質を含まない材料の使用 ㉗ 消火剤 ㉘ 断熱材 ㉙ 冷媒 ㉚ 地球温暖化への配慮 ㉛ 温熱環境悪化の改善		
	"災害に強いしずおか"の形成(Disaster)			
	<p>■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性)</p>	Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 2.1.2 ⑯ 2.4 2.4.1 ⑰ 2.4.2 ⑰ 2.4.3 ⑰ 2.4.4 ⑰ 2.4.5 ⑰	⑰ 耐震性 ⑱ 免震・制振性能 ⑲ 空調・換気設備 ⑳ 給排水・衛生設備 ㉑ 電気設備 ㉒ 機械・配管支持方法 ㉓ 通信・情報設備	
	"しずおかユニバーサルデザイン"の推進(Universal Design)			
	<p>■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) 階高:3.885m&4.680m&4.120m。 0.1 ≤ [壁長さ比率] < 0.3。</p> <p>■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮)</p>	Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱ 3 3.1 3.1.1 ⑲ 3.1.2 ⑲ Q-3 3 3.1 ⑳ Q-3 3 3.1 ㉑	㉑ ユニバーサルデザイン計画 ㉒ 階高のゆとり ㉓ 空間の形状・自由さ ㉔ 地域性への配慮、快適性の向上	
"緑化及び自然景観"の保全・回復(Nature)				
<p>■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/㉕まちなみ・景観への配慮/⑥敷地内温熱環境の向上)</p> <p>■敷地外環境対策 (⑮温熱環境悪化の改善)</p>	Q-3 1 ⑤ 2 ⑵ 3 3.2 ⑥ LR-3 2 2.2 ⑮	⑤ 生物環境の保全と創出 ⑵ まちなみ景観への配慮 ⑥ 敷地内温熱環境の向上 ⑮ 温熱環境悪化の改善		

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版

■使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	日本通運グループ伊豆研修センター NEX-TEC伊豆新築工事(宿泊・浴室棟・研修棟)	階数	地上4F
建設地	静岡県伊豆の国市菟山多田字前峠985-9、986-22-26・27・29・31・32	構造	RC造
用途地域	未指定、防火地域 指定なし	平均居住人員	790 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	事務所・集会所・ホテル	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年11月 予定	評価の実施日	2020年04月01日
敷地面積	98,325 m ²	作成者	平野 哲司
建築面積	2,736 m ²	確認日	2020年04月14日
延床面積	7,975 m ²	確認者	齋藤 充



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE=1.0 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B+: ★★★★★ C: ★

②建築物の取組み
③上記+②以外の
④上記+

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆

標準計算

①参照値

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア= 2.5

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 2.7

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 1.7

LR 環境負荷低減性 LRのスコア= 3.5

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 4.2

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 2.8

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.3

3 設計上の配慮事項		
総合	これはCASBEE静岡(2016年版)による評価結果です。 主要給排水配管は耐用年数が長い材料を使用している。 ライフサイクルコストの低減に努め、地球環境保護に配慮している。	その他 特になし。
Q1 室内環境	カーテン、庇を組み合わせて制御。	Q3 室外環境(敷地内) 特になし。
LR1 エネルギー	BPI=0.7。 [BEI][BEIm]= 0.68。	LR3 敷地外環境 ライフサイクルCO ₂ 排出率が、一般的な建物(参照値)に対して75%。
Q2 サービス性能	天井高2.7m以上。 主要な用途上位3種の、2種類以上にB以上を使用し、Eは不使用。	
LR2 資源・マテリアル	LGS使用している。 ODP=0かつGWPが低い発泡剤(GWP(100年値)が1以下)を用いた断熱材等を使用している。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される